

## カンボジアにおける分娩監視装置利用を普及させる研修プロジェクト

- ① 現地のニーズ等：子どもの死亡に死産、新生児死亡が占める割合が多い。【死産：新生児死亡：新生児期以降の死亡が約1:1:1】
- ② 事業目的：死産、新生児死亡の主要因である胎児低酸素血症を分娩監視装置(CTG)が主要病院で適用されることで早期発見し、その削減を目指す。
- ③ 事業の概要：神戸大学が、カンボジア国立公衆衛生研究所と国立母子保健センターおよび関係学会等と、1) CTGの適用による胎児低酸素の早期発見と2) 低酸素状態発見後の適切な臨床対応、および3) CTGの維持に係る保守管理手法の研修を、日本人医師・助産師およびメーカー職員を専門家として派遣し、また本邦研修を行う。  
期待される成果等：1) 日本人専門家が病院医師・助産師にCTG運用研修を行い対象病院で年度内にCTG判読と産科対応ができる、またカンボジア人医師・助産師が研修講師となる、2) 日本人専門家が関係学会関係者とCTG利用のガイドライン策定が年度内に開始される、また学会でCTG教育手法について報告・議論される、3) 日本人専門家が対象病院と保健省の医療機器管理者に研修を行い、保守点検マニュアルが策定される。

